

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.80

2006/07/09

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

中央湿原にヘイケボタル舞う 7月15日夜緊急ホタル観察会



成虫



幼虫



陸貝を喰う幼虫

中央湿原及びその東側観察コースで見つかった幼虫 (06/07/02)



カワニナが存在が明らかになっており、あるいは湿原にもホタルが生息している可能性があることから、先ず湿原の調査に出向いたが全く蛍光を発するモノは発見できなかった。「やまかど・森の楽舎」に戻り、周辺を調査するうちに草むらからかすかに蛍光を発するモノが観られ採取して幼虫図鑑で確認した結果「クロマドボタル」の幼虫であることを確認。参加者はいわゆるホタルを期待していたのだが、正体は確認できたものの多少気落ち気味であった。

クロマドボタルの幼虫 (06/06/17) が7月1日夜再び伊藤会員から「やまかど・森の楽舎でホタルを確認しました」との緊急電話が入り、急遽 ML で会員に2日夜湿原でのホタル調査を提案、またまた5名の会員がはせ参じました。7時40分「やまかど・森の楽舎」を出発、8時に北部湿原に到着。20分間観察するものの蛍光を発するモノは発見できず、事務局以外の4名は中央湿原の方に移動。8時25分北部湿原に居残った事務局の携帯が鳴った。『居ました。カスミザクラの所に居ます』との浅井会員の声。すぐさま中央湿原に移動。到着したときには既に浅井会員の手の中にはヘイケボタルが捕獲されていた。布施会員の懐中電灯の周期的な点滅に合わせて、中央湿原でヘイケボタルがあちこちで光っている。そのうち『地面でも光っているモノがいます』とのことに、会員の懐中電灯が一点に集まるものの、ホタルらしきモノが見えない。懐中電灯を消すと蛍光が見える。注意深く探るうち、それが幼虫であることを確認。しばらくするとまたまた地面で蛍光を発見。注意深く探すとそこには陸貝が蛍光を発している。採集してみると何と幼虫が入って喰っているのである。かくして湿原にホタルが生育しているということが確認された。がその数は時期的なこともあるのか「乱舞」にはほど遠いもので、再度 **7月15日(土)** (西浅井町主催観察会) 夜調査を実施します。多くの会員のご参加をお待ちしています。

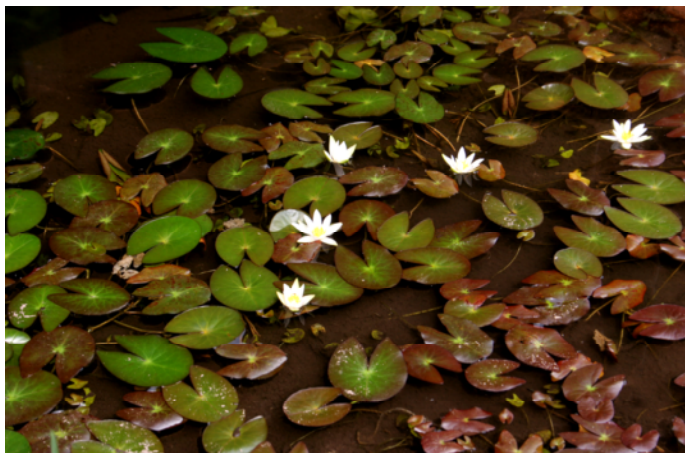
ササユリの季節であった6月は、ウィークディの来訪者も多く過去最高を記録した。



見事だった今年のササユリ (06/06/22)



見事に咲く附属湿地のノハナショウブ (06/06/22)



附属湿地を被うヒツジグサ (06/06/22)

2003 年 3 月の「やまかど・森の楽舎」竣工以来オオミズゴケの植栽に始まった附属湿地も、当初観察に絶える湿地になるのには 5 年は必要だろうと取組みを始めた。が随時報告してきたように予想以上の早さで上部の湿原の生態系観察の場としての代償機能を果たせるようになってきました。上部



の湿原へは保全の必要性から立入りを禁止していますが、附属湿地では間近に生物の相互関係を観察できるという利点があります。また場合によっては立入り観察・撮影も可能であり写真撮影のための訪問者からも絶賛を浴びています。も



PHOTO BY ITHO

交尾するハッチョウトンボ (06/06/28) っとも山門集落の水田蛙から採取して植栽したオオミズゴケに含まれていた水田雑草の猛威には、草引きという思わぬ作業もつきまっています、所期の目的は達成されつつあります。

モリアオガエルを喰うシマヘビ (06/07/02)



日差しの中で産卵盛ん (06/06/10)



降雨不足で孵化出来ない卵塊 (06/07/05)

2005 年の 6 月は降雨量・降雨日数共に少なく、モリアオガエルの産卵は 6 月 30 日から 7 月 1 日にかけての降雨で一斉産卵が起こった。が今年の 6 月は降雨量そのものは少なかったものの、降雨日数は多かった。通常モリアオガエルの産卵は、降雨の夜から朝にかけてが多いのだが、今年の産卵は予想外の展開となった。直射日光が燦々と照りつける中でも産卵が続けられた。特に 6 月 10 日は、南部湿原の南端では隙間がないほど次々と産卵が繰り返された。その状況を観察していると、湿原の水が残っている部分に、産卵を待ちかねた雌が集中し、何組もの産卵がほぼ同じところで行われるというものであった。翌 7 日には、この水域も縮小し産卵できない腹を膨らませた雌が雄を背に乗せたまま観察コースを移動するという悲惨な状況も観察された。がこの産卵に立ち会えた訪問者は長時間観察に釘付けになった。

